

# 体験授業

## What's Abenomics?

---

- 令和2年9月5日（土）  
11:40～12:10（前半30分）
- 於：新潟産業大学
- 江口潜（経済学部准教授）



# 自己紹介

新潟産業大学でミクロ経済学などの授業などを担当しています。

子供の頃から中学1年まで愛媛県松山市（四国の松山。俳句が盛んなところ。）で育ちました。

岡山市で中学2年から高校3年までの5年間を過ごしました。

そのあと、18歳で茨城県にある筑波大学（つくば）に進学し、28歳まで筑波大学と筑波大学大学院で勉強をしました。

29歳になったとき（平成6年）に、新潟産業大学に就職し、初めて新潟県に、住むことになりました。。。

# 新潟県柏崎市







ちなみに柏崎から「佐渡島」は「見えます」



## Asia-Pacific Journal of Regional Science

 [Editorial board](#)  [Aims & scope](#)  [Journal updates](#)

The *Asia-Pacific Journal of Regional Science* expands the frontiers of regional science through the diffusion of intrinsically developed and advanced modern, regional science methodologies throughout the Asia-Pacific region. Articles published in the journal foster progress and development of regional science through the promotion of comprehensive and interdisciplinary academic studies in relationship to research in regional science across the globe. The journal's scope includes articles

Asia-Pacific Journal of Regional Science  
<https://doi.org/10.1007/s41685-020-00166-4>

SN Shared

Online access to  
Nature SharedIt

BACK TO PUBLI

ARTICLE

# NIMBY (not in my backyard) conflicts: a simple game-theoretic analysis

Sen Eguchi<sup>1</sup> 

Received: 21 December 2019 / Accepted: 11 July 2020

© The Japan Section of the Regional Science Association International 2020





5

Related

10

References

18

1 / 13 >

≡ Add to L

a facility, such as an incinerator constructed in one of these distinct areas. Some of the production costs associated with such facilities, especially those that are borne by the area in which the facility is built, although the pollution in the factory are consumed equally by residents across the region. For this reason,

SN SharedIt

Online access to this article has been provided by Springer Nature SharedIt.

[BACK TO PUBLISHER](#) [WHAT'S THIS](#)

---

✉ Sen Eguchi  
eguchi@econ.nsu.ac.jp

<sup>1</sup> Faculty of Economics, Niigata Sangyo University, 4730 Karuigawa, Kashiwazaki, Niigata 945-1393, Japan

Published online: 21 July 2020

 Springer

書 評

松島斉著『ゲーム理論はアート  
社会のしくみを思いつくための繊細な哲学』  
日本評論社2018年1月

Hitoshi MATSUSHIMA, "Game Theory is an Art"

江口 潜  
Sen EGUCHI

1. はじめに

本稿は、松島斉先生（まつしまひとし先生。本稿では松島先生と呼ばせて頂く）が書かれた「ゲーム理論はアート 社会のしくみを思いつくための繊細な哲学」という本（以下では「ゲーム理論はアート」と書かせて頂く）の書評である。松島先生は現在、東京大学経済学部教授であられ、ゲーム理論なりミクロ経済学なりの教科書を「書いて下さい」という依頼はいくらでも出版社からあ

感じ、想定していた通りという感じであった。とは言え日本語で教科書的な本を書かれてこなかった松島先生が出版された本である。いくら想定していたこととはいえ、いつまでも跳ね返されっぱなしであるわけには行かない。どうしても「ゲーム理論はアート」という本全体の、意図やメッセージを理解したい。かといって松島先生ご本人にお伺いするわけにも行かない。なので私はこの本をいわゆる「ツンドク」の状態で見ながら、そ



新潟産業大学での学び （あくまで私の解釈です(^\_^;

- ・ 経済学？経営学？とにかくいわゆる「専門の勉強」

大げさな言い方をすると「理論武装」

- ・ 地域実践教育（地域に学び地域に・・・）

一言で言うと「地域で実際に汗をかこう」





はおいしい  
フェア!!

# 産大発! 大学×地域コラボ商品

とびきりの現代感  
**たな米・風輪**

新潟で生産された新鮮な米。  
新時代の、学生心躍る新商品。手  
ご当地産米と、地産米と、  
「たな米」は、新潟県産米と、  
「風輪」は、新潟県産米と、  
「たな米」は、新潟県産米と、

# 新潟産業大学 Niigata Sangyo University



**ふふ豆**  
風味・ゆず醤油



綿文クッキー  
**おうくんとかえんちゃん**



## \*メディアで紹介されました\*



▲新潟県産米の活用推進  
新潟県産米の活用推進  
新潟県産米の活用推進

5月20日(土)に開催された第9回「大学は美味しい!!」フェア  
新潟産業大学としては4回目の参加となる今年も、各セミナーが開催した  
地域コラボ商品は好評で、新潟(高崎)で完売に販売して頂きました。

# 第9回 「大学は美味しい!!」フェア

「大学は美味しい!!」フェアとは  
大学が誇る「まい」の魅力を、新潟県  
新潟県産米の活用推進。新潟は  
学生として地元産米の魅力を  
注目し、地域の産米、地産米  
産米と、地域の産米、地産米  
産米と、地域の産米、地産米



お客様の笑顔に答えて  
新潟産米の活用推進など  
お客様の笑顔に答えて  
新潟産米の活用推進など

また、イベント期間は、学生中心に  
Sales View、Sales View、Sales View



新潟産業大学での学び（あくまで私の解釈です(^\_^;

私の  
担当

・ 経済学？経営学？とにかくいわゆる「専門の勉強」

大げさな言い方をすると「理論武装」

・ 地域実践教育（地域に学び地域に・・・）


一言で言うと「地域で実際に汗をかこう」

ということで江口先生は「**理論武装担当**」の教員です(^\_^;

今日の11：40～12：10までの内容

(= 「理論武装」の内容の大まか紹介)

1) 自己紹介

 2) 経済学部で学ぶこと（経済学、経営学）をざっと説明

3) 安倍首相のアベノミクスとは？：マクロ経済学

4) 平均株価のお話

経済学部って、どんなことを勉強しているのだろう。

経済活動とは・・・世の中で、人々が  
「分業しあい交換しあって生活をしていこう」とする活動

「人の心のあり方」から人々のものの買い方などを説明し、それが世の中全体をどう変えていくか、どうなっていくか、といったことを考える **ミクロ経済学**

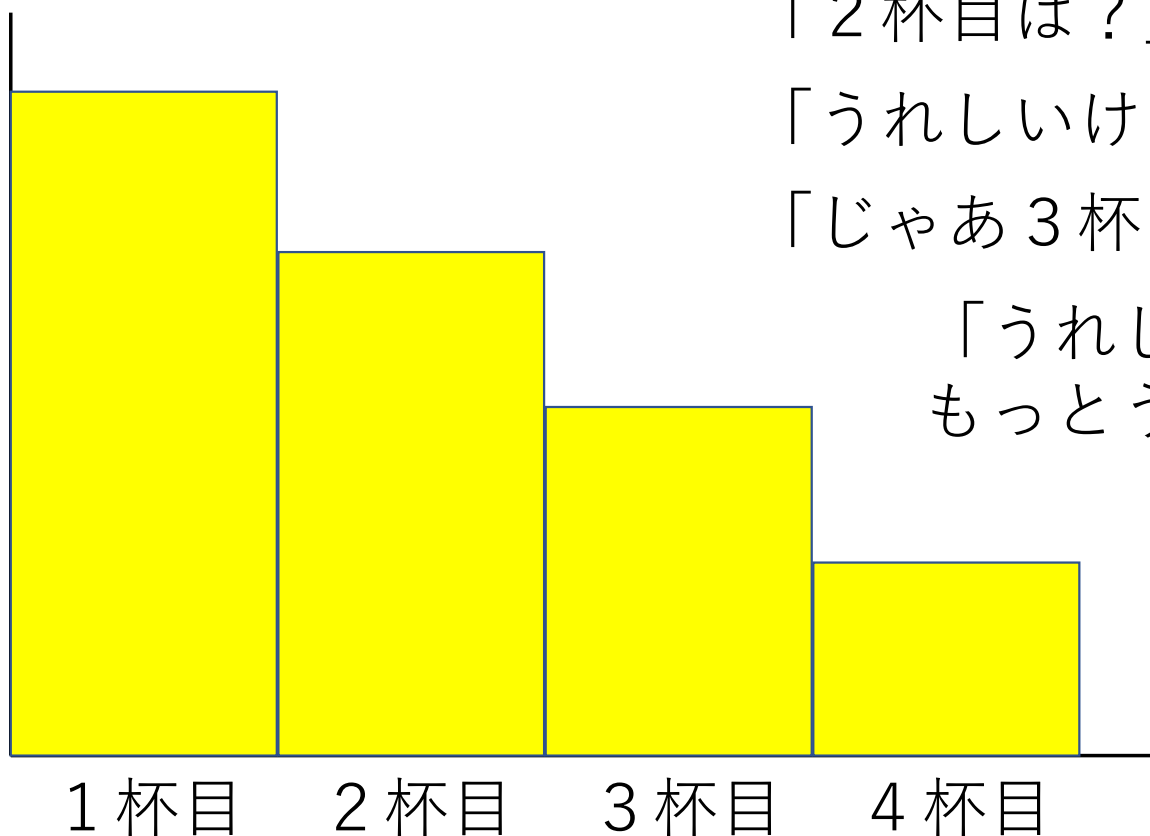
世の中全体の景気などの状態がどのような仕組みや理由で変化していくかを学ぶ **マクロ経済学**

**経営学** = みんなが内心求めているようなものを探し当て、それを作り、実際にみんなに買ってもらえるようになるまでのいろいろな知識を学ぼうという感じ。



「想像してみてください」 . . . 今回省略（後回し）

沸いてくる「うれしさ」



「1 杯目、うれしい」

「2 杯目は？」

「うれしいけど、1 杯目ほどじゃない」

「じゃあ 3 杯目は？」

「うれしいけど、2 杯目より  
もっとうれしさが目減りした」

一方で人々は「レジでいざお金を払うとき」に値段を聴くと「エッ？」とか「う～ん」とか思うことがよくあります。  
(それを、とりあえず「ムムム感」とでも読んでおきましょう)

「ムムム感」(^\_^;

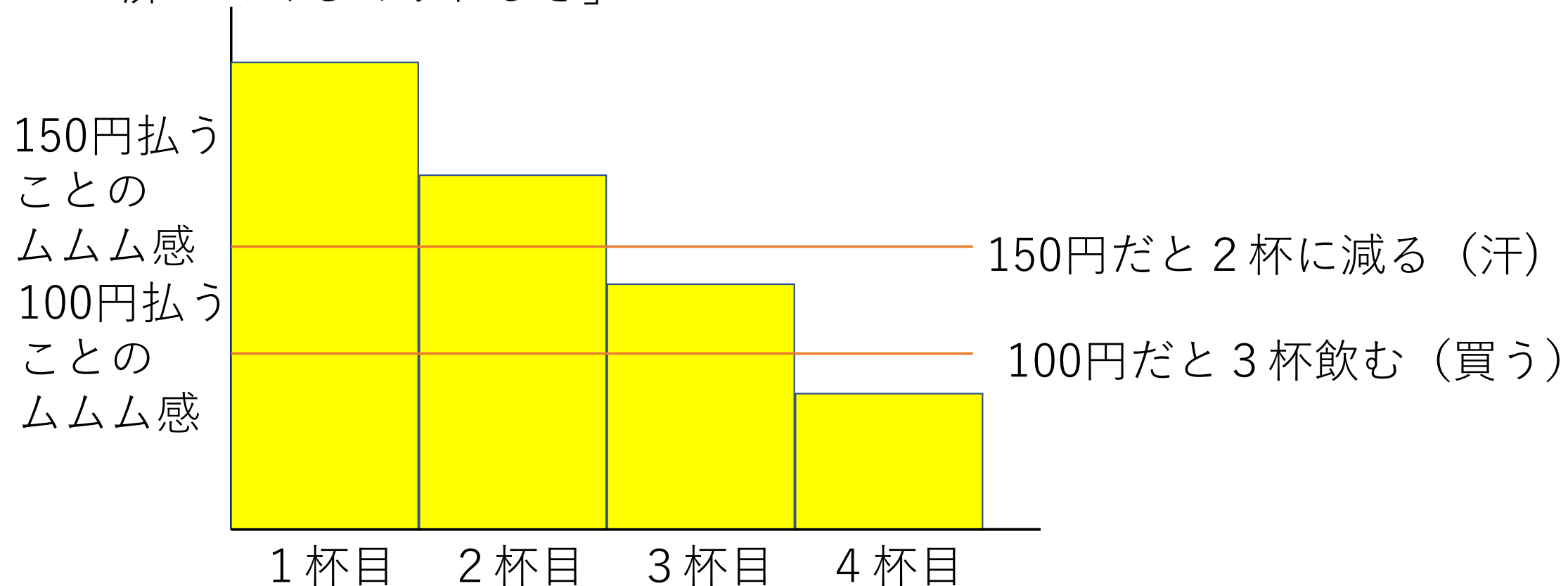
150円払う  
ことの  
ムムム感  
100円払う  
ことの  
ムムム感

150円払うことになると  
ムムム感も高くなる  
100円払うことのムムム感

1杯目 2杯目 3杯目 4杯目

そして「うれしさ」と「お金を払うときのムムム感」とを比べて、人々は「何杯目まで飲もう（買おう）」ということを決めています。

沸いてくる「うれしさ」





このような「人の心のあり方」から人々のものの買い方などを説明し、多くの人ができるだけ多くの「うれしさ」を感じられるような状態を考えたり、どうすればよいか考えたりするのが**ミクロ経済学**

なので（心理学ほどではないけれども）「人の心の有りようや姿」というものを振り返ることからミクロ経済学はスタートします。

一方・・・

毎日、何回も何回もNHKやラジオのニュースで

「為替と株の値動きです。」

「東京外国為替市場の午前の終値は・・・」

とか、

「日経平均株価の午前の終値は・・・」

とって報道がされています。（いわゆる経済ニュース）

では、

平均株価は**どのように**決まるのか（そもそも何か）。

平均株価は**なぜ**毎日変動するのか。

**あるいは**世の中の景気は**どのようなしくみで**決まっているのか。

世の中全体の景気や株価（平均株価）などが  
どのような**仕組みや理由**で変化していくかを  
学ぶのが**マクロ経済学**です。

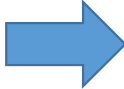


今日の11：40～12：10までの内容

(= 「理論武装」の内容の大まか紹介)

1) 自己紹介

2) 経済学部で学ぶこと（経済学、経営学）をざっと説明

 3) 安倍首相のアベノミクスとは？：マクロ経済学

4) 平均株価のお話

# アベノミクスとはどういう政策だったのか？

安倍総理大臣が辞任する意思を表明。総理大臣として「7年8ヶ月」。

高校生のみなさんにとっては「中学・高校時代はずっと安倍総理大臣だった」という、安倍内閣。

その間に安倍内閣はアベノミクスというマクロ経済政策をずっととってきました。

なのでアベノミクスについて理解したい。

# アベノミクスを理解する前提として知っておきたいこと・・・2つ

(1) 同じ条件の社会 (=同じ人、同じ技術、・・・) でも、そこでの人々の状態は2つ以上の事態が起こりえる (ことが往々にしてある)

例えば

東京と大阪では、**駅のエスカレータ**、東京人はみんな左側に立って右側を空ける。

部活で「**みんなが遅刻しないので、私も遅刻しない**」という部が時々「**みんなが遅刻してくるので、私も遅刻してくる**」という部になってしまうことがある。

## (2) 「お金をたくさん刷る」の意味

---

アベノミクスで政府（日銀）  
は  
たくさんお金を刷った。

安倍内閣はコロナ対策として  
国民一人あたり  
「10万円の給付金」を支給した。



問い：「同じ意味？」



日銀がお金をたくさん刷っても  
そのお金は私にくれたわけでは  
ない。

みんな10万円もらって、その分  
お金持ちになった。

答え：「同じではありません」

「アベノミクスはお金をたくさん刷ったから景気が良くなった」  
みたいな話しをしている人はたいてい「知ったかぶり」

ここから本題・・・

今述べたように、経済活動の状況というのは、人と人がつくる状況なので、実は物理的(?)な条件が全く同じ「2つの島」であっても「全くことなる状態」が、本当の本当に、起こりえる。

1つは「今日稼いだお金は、今日使っちゃおうよ。えっ? 使っちゃったら無くなる? 無くなったらまた稼げばいいじゃん\(^0^)/ (お互いみんなガンガン使ってるから、仕事なんてすぐ見つかるよ)」という島

もう1つは「今日稼いだお金は、私は今は使わずに、とっとくよ。だって今日使っちゃって無くなったら、今度はいつ稼げるか、分らないじゃん(^\_^;みんな節約モードでお金使ってくれないからマジで今度はいつ稼げるか心配だし(^\_^;(^\_^;」という島



経済活動が活発化しないのは「収入が手に入っても、将来が心配だから、今は使わないで、とっておこう」という「使わない（＝消費しようとしな）い」ことが最大の原因。

つまり

「今日稼いだお金は、私は今は使わずに、とっとくよ。  
だって今日使っちゃって無くなったら、今度はいつ稼げるか、  
分らないじゃん(^\_^;みんな節約モードでお金使ってくれないから  
マジで今度はいつ稼げるか心配だし(^\_^;(^\_^;」

というモードに入ってしまったことが現状であり、それを  
変えたい（「お互い、今、使っちゃいましょうよ」モードに  
チェンジしたい！）

では「今日稼いだお金は今は使いたくないな。将来が心配だし」モードになっているのを、

「今でしょ。今。今つかっちゃいなさいよ。お互いにガンガン使えば、お互いすぐに稼げあえるから、大丈夫だし、お互いにつくった素敵なものを享受しあえるからハッピーじゃないですか」モードにするにはどうすればいいのか？

それは、みんなを同時に、「せーの」で「今使わないでいると、（使えると思っていた蓄えが）目減りしますよ。なので今使っておかないと、損ですよ。」という状態にすること。。（同時に無いとヤバいかもよ(^\_^;)）

そのためにはどうすれば・・・「お金」という道具を使う！

市場経済制度は「自分が作ったものは、自分のもの（私が釣った魚は私のもの）」。「それをお互いに交換しましょう」という制度。

### 自然発生的な制度

お金（財布の中のコインやお札）は、この「お互いに交換しましょう」ということをスムーズに行いたくて（何となく人々が誰とは無しに生み出した）人造的なツール。

### 自然発生的ではない「経済活動のお助けグッズ」

なので今さらながら「**ビットコイン（仮想通貨）**」などという正体不明の新しいタイプの「お金（なのかどうか・・・）」も生まれて来ちゃう・・・（経済学者もお手上げ：仮想通貨）

## 「お金をたくさん刷る」の意味

アベノミクスで政府（日銀）  
は  
たくさんお金を刷った。

安倍内閣はコロナ対策として  
国民一人あたり  
「10万円の給付金」を支給した。



「このお金を貸してあげるから、何でも好きなことをやっていいよ。」  
を（銀行を通じて）増やした。

つまり、「たくさん貸してあげるよ」政策をとった)

「たくさん貸してあげるよ」 = 「第1の矢」

1) 民間企業の企業活動が盛んに成る（後押しされる）。

「このお金を貸してあげるから、何でも好きなことをやっいていいよ。」を増やした。

2) やっぱり世の中に出回るお金の量は増えるのでインフレ（=物価水準が全体的に上がる）になる・・・ハズだった

「今使わないと、貯金で買える量が目減りしますよ」になるのでみんなが「今買おう」モードに成るハズだった。

これに加えて・・・

3) 政府が積極的にモノを買ってあげたり、消費税増税を先送りしたりして、みんなが「今、買おう」とする気持ちの背中を押した。 = 「第2の矢」



アベノミクスが「思ったよりはうまくいかなかった」ワケ

- 1) なかなか「今でしょ」という心境に人々がならなかった
- 2) 終身雇用制（という雇用確保状態）が復活、までは行かなかった・・・終身雇用という名の「ベーシックインカム」
- 3) 安い輸入代替品（100円ショップにある中国製品）に押された
- 4) コロナ前までは「Go to 海外旅行キャンペーン」状態だった

今日の11：40～12：10までの内容

(= 「理論武装」 の内容の大まか紹介)

1) 自己紹介

2) 経済学部で学ぶこと（経済学、経営学）をざっと説明

3) 安倍首相のアベノミクスとは？：マクロ経済学

 4) 平均株価のお話・・・疲れてきたので一言だけ(^\_^;

